

2024年7月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年12月8日

上場会社名 株式会社エイチーム 上場取引所 東
 コード番号 3662 URL <https://www.a-tm.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 高生
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 社長室長 (氏名) 森下 真由子 TEL 052-747-5573
 四半期報告書提出予定日 2023年12月8日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2024年7月期第1四半期の連結業績（2023年8月1日～2023年10月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年7月期第1四半期	5,974	△16.3	△170	—	△137	—	△142	—
2023年7月期第1四半期	7,134	△2.7	213	—	223	—	120	—

(注) 包括利益 2024年7月期第1四半期 △74百万円 (—%) 2023年7月期第1四半期 225百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年7月期第1四半期	△7.67	—
2023年7月期第1四半期	6.48	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年7月期第1四半期	13,582	9,347	68.8
2023年7月期	13,855	9,704	70.0

(参考) 自己資本 2024年7月期第1四半期 9,347百万円 2023年7月期 9,704百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年7月期	—	0.00	—	16.00	16.00
2024年7月期	—	—	—	—	—
2024年7月期（予想）	—	0.00	—	16.00	16.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年7月期の連結業績予想（2023年8月1日～2024年7月31日）

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	28,700	4.2	600	10.3	600	△15.7	780	444.2	42.05

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社 （社名） 除外 ー社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料9ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご参照ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年7月期1Q	19,789,200株	2023年7月期	19,789,200株
② 期末自己株式数	2024年7月期1Q	1,227,221株	2023年7月期	1,236,421株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2024年7月期1Q	18,558,879株	2023年7月期1Q	18,533,012株

(注) 1株当たり四半期純利益の算定上の基礎となる期中平均株式数については、「株式付与ESOP信託」及び「役員報酬BIP信託」制度において、日本マスタートラスト信託銀行株式会社(株式付与ESOP信託口及び役員報酬BIP信託口)が保有する株式を控除対象の自己株式に含めて算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(追加情報)	10
(セグメント情報)	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは「Creativity × Techで、世の中をもっと便利に、もっと楽しくすること」という“Ateam Purpose”を掲げております。この“Ateam Purpose”のもとすべての役員及び従業員が一丸となり、様々な技術領域・ビジネス領域において、インターネットを通じて利用者の皆様に支持・利用していただける比較サイトや情報サイト、ゲームコンテンツ、ECサイトなどの企画・開発及び運営を行っています。具体的には、人生のイベントや日常生活に密着し、有益な情報を提供する様々なウェブサービスの企画・開発及び運営を行う「ライフスタイルサポート事業」、「人と人とのつながりの実現」をテーマに、世界中の人々に娯楽を提供するゲームやツールアプリケーションの企画・開発及び運営を行う「エンターテインメント事業」、様々な商材を取り扱う複数のECサイトの企画・開発及び運営を行う「EC事業」の3つの事業軸でビジネスを展開しております。

当第1四半期連結累計期間の売上高につきましては、前連結会計年度である2023年3月に実施した自転車小売事業の譲渡によりEC事業の売上が大幅に減少したことで、前年同四半期比で減収となりました。営業損失、経常損失、親会社株主に帰属する四半期純損失につきましては、前年同四半期比でEC事業において損失が大きく縮小するも、エンターテインメント事業において損失が拡大、ライフスタイルサポート事業の利益が減少したことで、前年同四半期の黒字から赤字に転じました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は5,974百万円（前年同四半期比16.3%減）、営業損失は170百万円（前年同四半期は営業利益213百万円）、経常損失は137百万円（前年同四半期は経常利益223百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は142百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純利益120百万円）となりました。

当第1四半期連結累計期間におけるセグメント別の経営成績は以下のとおりであります。

<ライフスタイルサポート事業>

ライフスタイルサポート事業では、様々な事業領域において個人の利用者に向けてサービスを展開する事業者と連携し、「三方よし」のサービス理念のもと、人生のイベントや日常生活に密着した比較サイト・情報サイト等様々な便利なウェブサービスを展開しております。

「デジタルマーケティング支援ビジネス」は、ユーザーの課題・悩みを元に適切な情報や選択肢を提示することで、パートナー企業の選択・意思決定を支援し報酬をいただくビジネスモデルです。広告運用・コンテンツ運用・メディア運用を自社で統合して実施することで、他社にはないデジタルマーケティング力を実現するとともに、ユーザーデータを蓄積し、活用しながら独自価値を向上させることで市場での優位性の構築に取り組んでおります。

個人のユーザーへは基本無料でサービスを提供し、主な売上はパートナー企業に当該ユーザーを見込顧客として紹介することに対する紹介手数料及び成約報酬であります。

当第1四半期連結累計期間の売上高につきましては、前年同四半期比で微減となりました。これは主に、人材メディア事業及び保険代理店事業の売上が前年同四半期比で増加となり好調に推移するも、引越し関連事業の一部である新電力会社及び通信事業者への送客事業において、資源価格の高騰や通信関連市場における顧客獲得競争の激化等、市場環境の変化に伴う取引先への送客制限及び送客停止による減収が生じたためです。セグメント利益につきましては、前述のとおり引越し関連事業の一部が減収に伴い減益となったことに加え、自動車関連事業における顧客獲得競争の激化及び結婚式場サイト「Hanayume（ハナユメ）」においてブランド力強化に向けた広告投資を行ったことにより費用が増加し、前年同四半期比で大きく減少いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間におけるライフスタイルサポート事業の売上高は4,387百万円（前年同四半期比3.4%減）、セグメント利益は158百万円（前年同四半期比73.4%減）となりました。

<エンターテインメント事業>

エンターテインメント事業では、主に自社で開発したスマートデバイス向けゲームアプリケーション（以下「ゲームアプリ」という。）をApple Inc.が運営するApp Store及びGoogle LLCが運営するGoogle Play等の専用配信プラットフォームを通じて、世界中の人々に提供しております。ゲームアプリ自体は基本無料で提供しており、主な売上はユーザーがゲームをより効率よく優位に進めるためのゲーム内アイテム購入代金であります。

近年のグローバルにおけるゲーム市場環境及びユーザーニーズの変化、そして技術の進化等を踏まえ、エンターテインメント事業はスマートフォンゲームのみならず、グローバルのデジタル配信ゲーム市場（モバイルゲーム、PCゲームデジタル配信、家庭用ゲームデジタル配信）全体をターゲットに、グローバルで人気のIPと連携し、展開することを中長期方針とし、さらなる成長を狙います。また、今後はこれまでのゲームアプリ開発で培ったスキルやノウハウを活かし、NFTゲームなど新領域での企画・開発・運営も進めてまいります。

当第1四半期連結累計期間の売上高につきましては、ゲームアプリ全体で引き続き減少傾向であり、また『FINAL FANTASY VII THE FIRST SOLDIER（ファイナルファンタジーVII ザ ファーストソルジャー）』が前連結会計年度である2023年1月11日にサービス終了となったことに伴い、前年同四半期比で減少となりました。セグメント損失につきましては、ゲームアプリ運営の効率化を行っているものの、前述のとおりゲームアプリでの減収に伴う減益により、前年同四半期比で損失が拡大しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間におけるエンターテインメント事業の売上高は1,039百万円（前年同四半期比19.6%減）、セグメント損失は86百万円（前年同四半期は4百万円の損失）となりました。

<EC事業>

EC事業では、化粧品ブランド「lujo（ルジョー）」をはじめ、複数の商材を取り扱うECサイトを運営しております。当社グループ内で商品の企画・開発・販促を行い、製造のみ外部に委託するOEM（Original Equipment Manufacturer）生産を行っており、主に、継続的にご購入いただく定期販売モデルです。

今後も品揃えや販売方法、配送品質を日々改善し、ユーザーの期待を大きく超える購買体験ができるサービスを提供してまいります。

当第1四半期連結累計期間の売上高につきましては、「lujo（ルジョー）」及び「OBREMO（オブレモ）」において顧客数が順調に増加し増収するも、前連結会計年度である2023年3月に自転車小売事業を譲渡したため、前年同四半期比で大幅減収となりました。セグメント損失につきましては、前述のとおり自転車小売事業の譲渡により、その運営費用が減少したことに加え、「lujo（ルジョー）」が前第4四半期連結会計期間に引き続き黒字となったため、前年同四半期比で損失が大きく縮小しております。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間におけるEC事業の売上高は547百万円（前年同四半期比57.8%減）、セグメント損失は47百万円（前年同四半期は145百万円の損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産

当第1四半期連結会計期間末における総資産は13,582百万円となり、前連結会計年度末に比べ272百万円減少いたしました。これは主に、現金及び預金の減少404百万円によるものであります。

② 負債

当第1四半期連結会計期間末における負債は4,234百万円となり、前連結会計年度末に比べ83百万円増加いたしました。これは主に、未払法人税等の減少178百万円があったものの、未払金の増加512百万円によるものであります。

③ 純資産

当第1四半期連結会計期間末における純資産は9,347百万円となり、前連結会計年度末に比べ356百万円減少いたしました。これは主に、利益剰余金の減少439百万円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に向け、2024年7月期は引き続き各事業セグメントの選択と集中を図ることに加え、2023年10月13日に開示した「上場維持基準適合に向けた計画の進捗状況及び計画内容の一部変更について」に記載のとおり、2025年7月期までにプライム市場上場維持基準に適合すべく、刷新した成長戦略の遂行、投資事業の成長及び収益性が悪化した事業の回復に努める一年としてまいります。また、在宅勤務をはじめとする多様な働き方の実現に伴い、引き続きオフィス等固定費の最適化を進めてまいります。

現段階においては、2023年10月24日に開示しました業績予想の修正に対して、各セグメント概ね想定通りの進捗であります。従いまして、通期連結業績予想につきましては2023年10月24日開示の予想を据え置くこととし、今後、業績見直しに変更が生じた場合には、速やかに公表いたします。

上記の将来に対する記述、以下の業績予想数値は、本資料発表日現在において当社グループが入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因により変動する可能性があります。

2024年7月期通期業績見直し (2023年8月1日～2024年7月31日)

売上高	28,700百万円	(前連結会計年度比	4.2%増)
営業利益	600百万円	(前連結会計年度比	10.3%増)
経常利益	600百万円	(前連結会計年度比	15.7%減)
親会社株主に帰属する当期純利益	780百万円	(前連結会計年度比	444.2%増)

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年7月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,992	5,588
売掛金	3,001	2,912
棚卸資産	220	196
その他	1,052	1,155
貸倒引当金	△2	△3
流動資産合計	10,264	9,848
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	318	336
その他（純額）	70	74
有形固定資産合計	389	410
無形固定資産		
のれん	152	141
その他	64	56
無形固定資産合計	216	198
投資その他の資産		
投資有価証券	2,449	2,611
敷金及び保証金	527	504
その他	11	12
貸倒引当金	△3	△3
投資その他の資産合計	2,985	3,124
固定資産合計	3,591	3,733
資産合計	13,855	13,582

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年7月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年10月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	95	110
未払金	2,363	2,876
未払法人税等	182	3
賞与引当金	—	21
販売促進引当金	77	62
株式給付引当金	18	—
役員株式給付引当金	—	8
その他	885	473
流動負債合計	3,621	3,557
固定負債		
資産除去債務	313	313
その他	215	363
固定負債合計	529	677
負債合計	4,151	4,234
純資産の部		
株主資本		
資本金	838	838
資本剰余金	832	832
利益剰余金	9,161	8,721
自己株式	△1,862	△1,846
株主資本合計	8,969	8,545
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	797	871
繰延ヘッジ損益	△93	△102
為替換算調整勘定	30	32
その他の包括利益累計額合計	734	801
純資産合計	9,704	9,347
負債純資産合計	13,855	13,582

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2022年10月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2023年10月31日)
売上高	7,134	5,974
売上原価	1,492	894
売上総利益	5,642	5,079
販売費及び一般管理費	5,428	5,250
営業利益又は営業損失(△)	213	△170
営業外収益		
受取利息及び配当金	0	0
為替差益	29	22
受取手数料	6	7
投資事業組合運用益	—	7
その他	3	4
営業外収益合計	40	42
営業外費用		
支払利息	0	—
債権売却損	7	7
投資事業組合運用損	21	—
その他	1	1
営業外費用合計	30	9
経常利益又は経常損失(△)	223	△137
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	223	△137
法人税等	103	5
四半期純利益又は四半期純損失(△)	120	△142
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	120	△142

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2022年10月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2023年10月31日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	120	△142
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	104	74
繰延ヘッジ損益	△0	△8
為替換算調整勘定	2	2
その他の包括利益合計	105	67
四半期包括利益	225	△74
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	225	△74

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(電子記録移転有価証券表示権利等の発行及び保有の会計処理及び開示に関する取扱いの適用)

「電子記録移転有価証券表示権利等の発行及び保有の会計処理及び開示に関する取扱い」(実務対応報告第43号 2022年8月26日 企業会計基準委員会)を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

(連結子会社における事業分離)

当社は、2023年10月24日開催の取締役会において、当社の連結子会社である株式会社エイチームウェルネス（以下「エイチームウェルネス」という。）が有している女性向け生理予測・体調管理アプリ「Lalune」を開発・運営するラルーン事業（以下「本事業」という。）に関する資産、債務、契約その他権利義務を簡易吸収分割により、株式会社メドレーに譲渡すること（以下「本取引」という。）を決議し、同日付で事業承継契約を締結いたしました。

(1) 事業分離を行う主な理由

当社グループは、2025年7月期までにプライム市場上場維持基準に適合すべく、当社グループの強みは「デジタルマーケティング力」であるとし、事業価値向上に向けた取捨選択や刷新した成長戦略に基づいた体制構築及び仕込みを進めております。

本事業に関しては、昨今の競合サービスの増加や広告市場の変化に伴い、更なる事業成長を実現するには、新たな機能の拡充や収益モデルの確立が必要な状況でしたが、当社グループ内のシナジー創出による収益拡大の見通しが立っておりませんでした。

そのため、「医療ヘルスケアの未来をつくる」をミッションとして掲げ、医療ヘルスケア分野への知見が豊富である株式会社メドレーに本事業を承継することで、当社の経営リソースの最適化を図り、より当社グループの強みを発揮できる領域へリソースを再配分してまいります。

(2) 分離先企業の名称

株式会社メドレー

(3) 分離する事業の内容及び規模

① 分離する事業の内容

エイチームウェルネスにおける、女性向け生理予測・体調管理アプリ「Lalune」を開発・運営する事業

② 分離する事業の売上高（2023年7月期）

売上高 175百万円

③ 分離する資産、負債の金額（2023年7月31日現在）

資産		負債	
項目	帳簿価額	項目	帳簿価額
流動資産	37百万円	流動負債	23百万円
固定資産	1百万円	固定負債	－百万円
合計	38百万円	合計	23百万円

(4) 事業分離日

2024年2月1日（予定）

(5) 法的形式を含むその他取引の概要に関する事項

エイチームウェルネスを分割会社とし、株式会社メドレーを承継会社とする吸収分割方式（簡易吸収分割）であります。株式会社メドレーは、本取引により、本事業に帰属する資産、債務、契約その他の権利義務を、本事業承継契約の定める範囲において承継いたします。

エイチームウェルネスは、本取引に際して、承継する権利義務に代わる対価として現金500百万円の交付を株式会社メドレーから受ける予定であります。当該金額には、上記の本取引の対価が含まれております。

また、本取引において、当社が負担すべき債務の履行の見込みに問題はないと判断しております。

(6) 譲渡する事業が含まれている報告セグメントの名称

ライフスタイルサポート事業

(セグメント情報)

前第1四半期連結累計期間(自 2022年8月1日 至 2022年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ライフスタイル サポート事業	エンターテイン メント事業	EC事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,543	1,293	1,297	7,134	—	7,134
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	4,543	1,293	1,297	7,134	—	7,134
セグメント利益又は損失 (△)	595	△4	△145	444	△231	213

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△231百万円は、報告セグメントに帰属しない全社費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2023年8月1日 至 2023年10月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	ライフスタイル サポート事業	エンターテイン メント事業	EC事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	4,387	1,039	547	5,974	—	5,974
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	4,387	1,039	547	5,974	—	5,974
セグメント利益又は損失 (△)	158	△86	△47	24	△194	△170

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△194百万円は、報告セグメントに帰属しない全社費用であります。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。